

地本業務ニュース

JR 東海 労・静岡地方本部

NO.10 2021年2月3日発行者：JR東海 静岡地方本部 半場弘恭

申第7号「東海道線金谷菊川間の 信号機トラブルについて」で 業務委員会開催

1月27日、申第7号「東海道線金谷菊川間の信号機トラブルについて」の業務委員会を開催し、地本は会社と議論を行いました。

以下回答と主な議論です。

1. 事象の状況と、復旧までの会社対応の経過を明らかにすること。
回答：06：31 信号通信指令の自動検査端末に金谷～菊川下り4号全断芯発生。掛川電気区社員を非常呼び出し。06：37～06：46 1071列車が金谷～菊川間下り第4閉そく信号機進行現示のところ、滅灯していたため停車。輸送指令に故障報告。指令間協議を行い、無閉そく運転により運転再開。07：41～08：07 掛川電気区社員現地到着。4現示全ての電球を取り替え実施。現時及び自動検査回復。08：08 現時を確認していた掛川電気区社員より、再度G（進行現示）滅灯の連絡。輸送指令へ故障通告。08：16 調査の結果、起動リレーの接点不良が原因と思われると連絡あり。リレーの取り替えを実施。8：32 進行現示の正常を確認して通告解除。09：34 現車による正常動作を確認し現地引き上げ。
2. 当該信号機のトラブルの原因を明らかにすること。
回答：起動リレーの接点不良である。
3. 関係列車の乗務員に、信号機の状況と対応についてどのように伝達指示したのか明らかにすること。
回答：金谷菊川間下り第4閉そく信号機が故障のため、関係列車に無閉そく運転を通告した。

4. 今後の対策について明らかにすること。

回答：今回不良となった箇所と同種箇所について、緊急点検を実施した。

《主な議論》

組合：リレーの故障によるもので電球の断芯ではなかったということか。

会社：そのとおりである。

組合：自動検査端末では信号の消灯が検知されるのか、断芯が検知されるのか。

会社：電球に流れる電流を見ているので、電球が切れていても配線に不具合があっても電流が流れなくなるので、それを検知している。消えているということが検知される。なぜ消えているかは現地調査となる。フィラメントは二重系になっており、片側が切れれば片断芯で、全部消えることはない。今回はリレーの不具合で電流が流れなくなったため、システム的には全断芯ということである。

組合：リレー故障で点いたり消えたりすることがあるのか。

会社：不完全な接触はありえるので、今回のように点いてまた消えてというのはいえる。

組合：緊急点検は今回の対応だが今後はどのように考えているのか。

会社：今までの点検のやりかたが悪いとは認識しておらず、十分な管理をしているので何か変更することは考えていない。

組合：進行を指示する信号が出なくなってしまった場合は停止を現示できるようにすべきと考えるがどうか。

会社：消灯した場合は最大の制限ととらえるのが運転取扱いだと認識している。すなわち停止である。

組合：A T Sにより警報、停止というのは考えられないか。

会社：乗務員としては、このような場合の定められた取扱いをしていただきたい。機器に関しては言及できない。

組合：停止信号が出れば乗務員としては安心であると考えます。

会社：今回のようなトラブルでは停止信号を出すこともできない。

組合：L E D式でもか。

会社：そのとおりである。

組合：ヒューマンエラーをカバーするための方策が何か必要ではないかと考える。

以上